



京都文教大学臨床心理学部 主催

シンポジウム 心理臨床と地球の未来 31世紀の地球を占う

心と魂の深みを探る

心理臨床の源流 科学と宗教のはざままで

心理療法の現代的課題—意識の拡張をめぐる—

濱野清志 (臨床心理士、京都文教大学教授)

体を癒す心、心を癒す体—近代日本の民間精神療法—

吉永進一 (宗教学者、舞鶴工業高等専門学校教授)

鈴木大拙と西田幾多郎の起源—心理学、宗教学、生物学の交点—

安藤礼二 (文芸評論家、多摩美術大学准教授)

近代はなぜ靈性を必要としたか

若松英輔 (批評家、『三田文学』編集長)

指定討論 海猫沢めろん (作家)

指定討論 鏡リュウジ (占星術研究家、京都文教大学客員教授)

2015年6月28日(日) 13:00~17:50

場所: キャンパスプラザ京都 2階ホール

定員: 80名 (申込み不要・入場無料)



心と魂の深みを探る

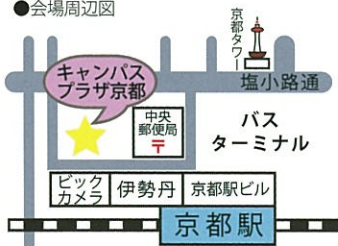
心理臨床の源流 科学と宗教のはざままで

現在、「科学」としての地位を確立している精神医学や心理学。しかし、一方では、心理臨床の場ではいわゆる科学的方法論では扱いきれない、一人一人の実存的な人生と向き合うという面が大切な要素となっています。心という目には見えない領域をどのようにとらえ、扱い、向き合っていけばいいのでしょうか。近代の精神医学や心理学は、いわゆる宗教や呪術といった領域と近接したところから立ち上がってきました。「心」の領域は、客観的に現象を測定し、とらえようとする科学と、人の魂の救済を考える宗教の両方にオーバーラップしているのではないのでしょうか。

今回のシンポジウムでは、「心」と向き合おうとしてきた人々の営みの源流をたどり、未来の「心」との向き合い方のヒントを探っていければと考えます。

- 13:10-13:40 **心理療法の現代的課題—意識の拡張をめぐる—**
濱野清志 (臨床心理士、京都文教大学教授)
- 13:40-14:10 **体を癒す心、心を癒す体—近代日本の民間精神療法—**
吉永進一 (宗教学者、舞鶴工業高等専門学校教授)
- 14:20-14:50 **鈴木大拙と西田幾多郎の起源—心理学、宗教学、生物学の交点—**
安藤礼二 (文芸評論家、多摩美術大学准教授)
- 14:50-15:20 **近代はなぜ靈性を必要としたか**
若松英輔 (批評家、『三田文学』編集長)
- 15:30-15:50 指定討論 **海猫沢めろん** (作家)
- 15:50-16:10 指定討論 **鏡リュウジ** (占星術研究者、京都文教大学客員教授)
- 16:10-17:50 **フリーディスカッション**
司会進行 鏡リュウジ・濱野清志

●会場周辺図



京都市営地下鉄烏丸線「京都駅」、
JR「京都駅」、近鉄「京都駅」下車 徒歩5分
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る
(ビックカメラ前、JR京都駅ビル駐車場西側)

●お問い合わせ先

電話：0774-25-2487 (京都文教大学臨床心理学部事務室)
メール：gas@po.kbu.ac.jp (件名に『臨床心理学部主催シンポジウムの件』とお書き下さい)

